子どもの森づくり通信

ＪＰ子どもの森づくり運動
参加園月例会報
（2024年６月号）

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
〒146-0094 東京都大田区東矢口2－6－14　tel:03-5755-3213　fax:03-5755-3081
https://www.kodomono-mori,net　mailtp:info@kodomono-mori,net

「ＪＰ子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

＜今月の１枚＞

一部の地域を除いて梅雨入りし、蒸し暑い日々が続きます。

熱中症にお気をつけください。

今月号では、5月に開催しました「保育防災サミット」の開催レポートをお送りします。

多くの方にご支援いただき、とても意義ある活動となりました。

盛りだくさんの内容なので、通信ではその一部しかご紹介しきれません。

詳細は、ホームページをご覧ください。

写真は、東北復興グリーンウェイブで宮古市の「うみどり公園」に植えられたどんぐりの苗木です。

子どもたちの背丈を超える大きさに育ってくれました。

【目次】

１．JP子どもの森づくり運動「保育防災サミット in おおづち」開催レポート
２．リレーエッセイ（2024年６月号）

日本郵政グループからのお知らせ

日本郵政グループは「ＪＰ子どもの森づくり運動」の支援のほか、子ども達に向けた様々な取組みを行っています。

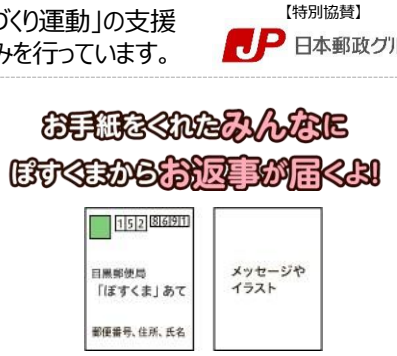
【特別協賛】
日本郵政グループ

ぽすくまの動画はこちら

YouTube
ぽすくま【日本郵便】
https://www.youtube.com/channel/UCeio0TZWe2WgapX_NqUUZ9A

ぽすくまと仲間たち
©JAPAN POST Co., Ltd.

ぽすくまと仲間たちは郵便局のキャラクターです。ぽすくまは、くまのぬいぐるみの郵便屋さんです。仲間たちもみんな手紙が大好きです。



あて先はこちら

〒152-8691
目黒郵便局「ぽすくま」あて

※ぽすくまへのあて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願いします。返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号まで）・氏名を忘れず記載ください。

１．JP子どもの森づくり運動「保育防災サミット in おおづち」開催レポート

「東日本大震災」から「能登半島地震」まで、今や災害列島化したわが国の現状を考えるとき、保育・幼児教育における防災対応は待ったなしです。しかしながら、多くの幼い命を預かる保育・幼児教育の現場には、通常の防災のスキルは通用しません。「保育防災」としてのオリジナルの防災の仕組みと、高い防災マインドを持つ「保育防災リーダー」の養成が必要です。

JP子どもの森づくり運動では、「保育防災リーダー」を養成する「保育防災認定講座」に取り組んでまいりましたが、この度、保育防災の普及と、東北の保育者と全国の保育者が保育防災について考えることを目的に、第１回目の「保育防災サミット」を岩手県大槌町で開催しました。以下、開催レポートです。詳細は、ホームページをご覧ください。

１）開催概要

・開 催 日 ：2024年5月22日(水)14：00～17：00
・会　　場：岩手県大槌町文化交流センター（おしゃっち）
・企画主催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（子森ネット）
・共　　催：大槌町
・特別協賛：日本郵政グループ
・協　　力：あかまえこども園、とよまねこども園、山田町第一保育所、織笠保育園、つつみこども園
　　吉里吉里保育園、かまいしこども園、三陸鉄道、他

２）開催内容

【開会式】

「保育防災サミット」は、「東北復興グリーンウェイブ」の活動で出会った様々な方のご支援で実現しました。
開会式では、主な方々にご出席いただき、ごあいさついただきました。

主催者あいさつ：子森ネット塚原代表

共催者あいさつ：大槌町平野町長

ご来賓あいさつ：（社福）堤福祉会　芳賀理事長

ご協賛会社あいさつ：日本郵政　広報部　高松氏

【主な開催プログラム】

プログラムとしては、まずお二人の方から基調講演としての話題、及び問題提起をいただきました。お一人目は、“釜石の奇跡”を実現した「釜石小学校」の前の校長である渡邉氏から「3.11の教訓に学ぶ」をテーマに、お二人目は、現在、保育防災認定講座の講師を務めていただいている鎌田氏にお願いしました。

その後、東北から3園、東京都と福井県からご参加いただいた園から、それぞれ保育防災の取り組みについて事例発表をいただき、最後にそれらを受けて、今後の活動展開を考えるパネルディスカッションを実施しました。

おかげ様で様々な方々のご支援もあり、とても充実した企画となりました。

〇基調講演１：釜石小学校元校長　渡邉　真龍氏
～「3.11」に学ぶ保育防災の核心は「心の教育」～

〇基調講演２：タフ・ジャパン　代表　鎌田　修広氏
～「保育防災認定講座」が目指すこと～

〇事例発表
宮古市「あかまえこども園」高橋先生

〇事例発表
山田町「とよまねこども園」上野先生、福士先生

〇事例発表
大槌町「つつみこども園」芳賀先生

〇事例発表
福井県「大野幼稚園」末永先生、石森先生

〇事例発表
東京都「新宿こだま保育園」伊藤先生

〇パネルディスカッション

２．リレーエッセイ（2024年６月号）

「遊び」をテーマとする日本冒険遊び場づくり協会 関戸代表による最終回のエッセイです。今月号のテーマは、いよいよ「遊びの生まれる場づくり」についてです。関戸さんからの3回のエッセイに共通することは、試されているのは大人であり、重要なのは「大人の遊び心」だということ。体験の場を提供するものとして、あらためて肝に銘じたいと思います。
関戸さん、素晴らしいエッセイ、ありがとうございました。

遊びの生まれる場づくり
NPO法人日本冒険遊び場づくり協会　代表　関戸　博樹

みなさん、こんにちは。4月から3回にわたり担当してきましたが、今回で最終回、「遊びの生まれる場づくり」という内容です。「非認知能力を育む“遊び”」という統一テーマに対して私が何度も出したキーワードは「いいことを思いつき、やってみたいことに挑戦する」でした。そういった挑戦ができるのはどんな場所なのかについて話を進めていきたいと思います。

まず大切なことは「遊ぶ」という行為は子どもが主体なので、大人がやらせたいプログラムなどが出来る限り少ない方が良いということは自明です。場所に子どもを合わせるのではなく、子どもひとりひとりのやってみたいというニーズに場所を合わせていくということです。そして、子ども自身が場所を変化させたり、遊びを一から手作りできるような余白もたくさんあると良いでしょう。この時に適した環境は豊かな自然がある屋外や、自然がなかったとしても自由に使える素材や物、そして道具が豊富にある場所です。

次に大切なことは大人たちの遊び心です。子どもは元来遊ぶ力を持っています。そのため環境さえ整えば遊ぶことができるのですが、その場にいる大人が管理的だったり、子どもの遊ぶに不寛容な態度を示せば途端に委縮して遊びをやめてしまうでしょう。逆に大人が遊び心を持って場にいること、ニコニコと楽しそうに遊ぶ大人の姿は子どもにとって最高の良きモデルとなるでしょう。

そして最後は対話です。遊ぶということは必ずそこにケガのリスクは存在します。「何かあったら困るので」と一方的にリスクゼロという方針をつくってしまうと、その場はまったく遊べない場所になってしまいます。子どもが育つ上で必要なリスクへの挑戦が遊びの中にあるということを明らかにして、どこまで許容できるのかという対話をまずはスタッフ間が重ねることが重大なケガを防ぐための最低限のスタートラインです。

子ども主体、大人の遊び心、リスクへの挑戦を見守るための対話、こういったことがしっかりと整っている場所であれば、子どもは「いいことを思いつき、やってみたいことに挑戦する」ことが存分にできるのです。

読後の感想などあれば事務局まで寄せてもらえれば励みになります。これからも子どもが遊び育つことができる環境づくりをそれぞれの立場で進めていきましょう。どこかでお会いできることも楽しみにしています。ありがとうございました。

※執筆者紹介

NPO法人日本冒険遊び場づくり協会代表。こども家庭庁こどもの居場所部会委員。
大学卒業後、渋谷はるのおがわプレーパークの常駐プレーリーダーとして8年間従事。
その後、2年間主夫として長男の子育てを経験する。現在はフリーランスになり、様々な遊び環境づくりを中心に人材育成なども行っている。2男1女の父。